

第24回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。



井上 正士 君
(不二ライトメタル
株式会社 取締役)

井上 正士 君は、1980年に九州不二サッシ株式会社（現 不二ライトメタル株式会社）に入社以来、アルミサッシをはじめとするアルミニウム型材の製造に従事してきた。また押出型材だけでなく、プレス材や精密加工品の製造など様々なアルミニウム応用製品の開発を行ってきた。さらに、2003年からは熊本大学と協力しKUMADAI耐熱マグネシウム合金の製造技術開発に取り組み、2010年からその事業化を行い、現在では汎用マグネシウム合金やLZ91合金、難燃性マグネシウム合金など、マグネシウム合金の製造拠点を構築した。

本学会では、2010年から現在まで九州支部の役員を務めている。2012年の第122回春期大会および2018年の第134回春期大会では実行委員として講演大会の運営を担当し、2013年8月には九州支部例会講演会・工場見学会および懇親会、2020年2月には九州支部中堅企業支援支部セミナー・若手助成支部セミナーおよび交流会の実施を担当するなど、本学会活動に貢献している。

また、2013年10月に日本マグネシウム協会の初代九州支部長となり、軽金属学会九州支部の後援による「日本マグネシウム協会九州支部設立記念シンポジウム」および「技術者育成セミナー」を実施している。さらに2019年6月に日本マグネシウム協会の会長に就任し、軽金属、特にマグネシウム合金に関する認知活動を実施している。

以上のように同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



箕田 正 君
(株式会社UACJ
主幹)

箕田 正 君は、1990年に住友軽金属工業株式会社（現 株式会社UACJ）に入社し、アルミニウム合金の組織制御および材料特性向上の技術開発に従事してきた。アルミニウム合金の熱間加工におけるマイクロ組織制御では、これまで着目されていなかった鑄塊セル境界の成分偏析や固溶原子に着目し、これらによる再結晶抑制効果を明らかにすることで、押出材の繊維状組織の安定性向上や、温間圧延による微細組織形成を可能にした。また材料特性向上に関する研究では、従来未解決であった6063合金押出材のピックアップ欠陥発生機構の解明をはじめ、6061合金の粒界腐食に及ぼす粒界性格とPFZ形成の影響解明、5000系合金板材でのリユース帯形成機構解明、7000系合金板材での復元処理に及ぼすCu添加量の影響解明、6000系合金板材のFSW材における時効硬化速度制御による延性向上、7000系三元合金の人工時効特性に及ぼす自然時効の影響解明などを行った。これらの研究成果は学術論文などで公開しており、本分野の発展に大きく貢献している。

一方、軽金属学会では研究部会、編集幹事、研究委員会常設部会、軽金属論文賞・論文新人賞推薦委員会、ICAA12・ICAA18実行委員会、研究委員会などの委員を務め、さらに軽金属基礎技術講座の講師も務めた。また講演大会の座長やポスター審査員、投稿論文の査読も数多く務め、運営に貢献した。

以上のように同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。